

日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 4 回 助成期間：平成 19 年11月1日～平成 20 年10月31日

テーマ：文化財を用いた環境教育の実践

氏名：遠部 慎 所属：国立歴史民俗博物館

1. 課題の主旨

文化財を用いた環境教育に取り組む地域として、社会的にも豊島問題で有名な豊島において本課題を実施する。豊島を含む土庄町では、週末を中心に、小中学校や公民館で各種の社会教育活動が頻繁に行なわれており、地域のネットワークも確立しており、そのことが豊島問題の早期解決にも繋がっている。しかしながら、文化財を含め、豊島問題を総合的に考える上で、物質文化については社会教育の中で十分には活かされていない。そのことの一因に、発掘などの身近な文化財に触れる機会が少ないことがあげられる。このことは豊島産業廃棄物不法投棄事件を歴史的に位置づけ、地域で語り継いでいく上で、支障となっている。また、土庄町という複数の島からなる行政区分のため、小豆島・豊島・小豊島などの主な島々が分断されているため、それぞれの場所の文化財の比較・検討を行なうのは困難な状況にあった。しかしながら、土庄町史（2007）も作成され、各島の様相も少しずつ判明してきた。

豊島では、文献資料などがほとんど残っておらず、歴史を構築する上で考古資料は大きな力を発揮する。考古資料は過去を復元する貴重な文化財である反面、先人達の廃棄したゴミという側面を併せもつ。そうした考古資料を通じ、「ゴミとは何か」という問題を広く考えるための教育活動を行うことを、本課題では目的とする。近年、ゴミ問題は内外を問わず、各地でおこっている身近な問題である。しかしながら、ゴミに関する問題が生じた地域でゴミを長期的かつ考古学的な視点で検討し、さらに研究成果等を地域に還元している事例はなく、まさにモデルケースとなると考える。

2. 準備

土庄町教育委員会、豊島学会、豊島中学校をはじめとする地元の組織と調整をはかり、資料保管先でもある豊島中学校において資料調査を行った。各地の遺物の調査については松田朝由・松本安紀彦らとともに、豊島の分布調査については、五十嵐聡江を中心に意見調整を行った。その際に、豊島学会での展示についても、打ち合わせを行った。豊島の考古学的な通史を作成する作業を中心としたため、年代測定や豊島の遺跡が講義の核となった。年代測定をわかりやすく伝えるため、東京大学（MALT）・国立歴史民俗博物館などの測定機関で打ち合わせを行い、実際の実験等の準備を行った。

3. 指導方法

現地を一緒に踏査し、考古学的な情報を積極的に収集した。島の学校では、それらをもとにテキストを作成し、地域の文化財を理解してもらうよう講義を行った。また、実際の資料を借用し、わかりやすい展示やポスターを作成し、地域にある文化財を知ってもらえるようにした。講義はパワーポイントなどを中心に行い、それらの様子については、デジタルビデオで撮影した。豊島つぷをはじめとする資料や刊行された論文等を、豊島住民会議やフェリー乗り場にて配布し、その普及をはかった。

4. 実践内容

2008/11/24-25 アイランダー2007

全国の島を一堂に集めて行うイベント、アイランダー2007において豊島の遺跡についてのポスターを作成し、資料を配付した。遺跡に重点をおいた島は少なく、産業廃棄物問題とともに遺跡についても多くの関心が寄せられた。

2008/7/3 総合学習（豊島中学校）

「豊島っぶ vol.1」を見た中学生の「遺跡がどこにあるのか？」という疑問に端を発したが、看板や標識のない遺跡を探すのは通常困難である。そのために、有識者が案内する形で、遺跡の分布図や関連資料を用意し、事前に行きたい遺跡をリストアップし、神子ヶ浜、柚浜、爾霊山古墳などで遺物採集や踏査を行った。

2008/8/24-8/26 島の学校

これまで、豊島の遺跡の分布調査や資料調査を行った成果に加え、豊島に関する考古学的研究をされていた方などにも参加していただき、歴史クラスの授業すべてを「物質文化」というテーマで行った。題材は「産業廃棄物不法投棄現場の考古学—水ヶ浦のモデルケース」（遠部）、「産廃の島の遺跡を守ろう！！」（五十嵐）、「神子ヶ浜遺跡とその時代—浜辺に進出した縄文人—」（松本）、「豊島石石造物の歴史的展開—豊島石石造物調査の途中経過報告—」（松田）、「豊島の古墳—立地の意味とその解釈—」（福田彰宏）、「犬島貝塚の発見の経緯」（小野伸）である。

ここでは、特に産業廃棄物不法投棄場所（水ヶ浦）周辺の遺跡の概要を講義し、跡地利用等を考えるうえで、かつて2万年間の水ヶ浦がどのような景観であったのかを説明し、それを取り巻く豊島の考古遺跡の近年の研究成果を発表、報告した。また、実際に持ち寄られた遺物については解説を行い、簡易展示（豊島のトランク：市村康作成）も行った。豊島のトランクは、ワークショップ踏査時の様子や成果をコンパクトにまとめた構成になっており、さらに近年調査成果のあがっている犬島との繋がりも表現される内容となっており、島と島の新たな関係性を創造させるものであった。

5. 成果・効果

これまで、「豊島の考古学」は町民に周知されていなかったが、豊島学会や島の学校を通じ、豊島に数多くの考古遺跡があり、実際の遺物を手にとってもらい、遺跡を歩き、遺跡を知ってもらう機会を増やした。これまでに、遺跡、遺物に対する認識はほとんどなかったが、これらの作業を契機に、島の学校では、歴史クラスまるごと考古学で行ったことは物質文化研究を通して豊島の歴史を構築し、それを普及させるという本研究の目的をほぼ果たせた形になる。また、総合学習の授業については、2008.10.26の文化祭（豊翔会）で、遺跡を中心とする発表に繋がり、本活動の大きな成果といえよう。

6. 所感

実際の遺物の展示、借用、活用にあたっては所蔵機関の手続き上の問題が大きい。そのような中、実際、豊島において、誰でも自由に扱える資料（教材）を蓄積していく必要が高いことが改めてわかった。そのために生徒とともに資料を収集する活動の意義は大きく、豊島中学校などにある資料を再整理する必要性は高い。

また今年度、各遺跡を踏査した際に、遺跡の破壊が進行しているケースはなかったが、周辺環境の悪化に伴い、遺跡を発見できないケースもあった（小豊島）。遺跡の周知とともに、再調査などに努める必要がある。

周知遺跡であることが認識されていないことに、このような現状がある一因であり、継続して、豊島っぶなどを作成し、周知を促すために配布する意義や必要性は高い。これまで、瀬戸内海島嶼部において、そのような作業は行われていないため、先駆的な試みと判断したい。

7. 今後の課題や発展性について

今後はアースデーや、住民のゴミ拾いの日に、屋外の産廃場所である水ヶ浦の浜辺や、柚浜、中玉、神子ヶ浜などのビーチで、ゴミを片付けつつ、実際に貴重な遺物を収集し、ゴミの中から遺物を見つけるという作業を行うことを考えている。これについては、本年アースデイに参加し、次年度以降にむけて調整中である。また、各地の資料館や、中学校などでの遺物の整理を行っているので、一定の成果があがった段階でそれらを使った総合学習授業なども視野に入れている。

礼田崎貝塚の簡易展示として好評であった「豊島のトランク」の補強や「犬島のトランク」などの作成が進み、“豊島つぶ”とあわせて“いぬしまつぶ”の作成が進んだことも島と島を繋ぐ大きな架け橋となることが期待される。

このほかに、アイランダー2008（2008.11.24-25）では「島の学校イン東京」を実施することが出来、本活動の継続意義やその新たな展開が示されたといえよう。

さらに、聞き取り等を進め、考古学と豊島問題の関連についても調査を進めている。豊島産業廃棄物不法投棄事件は、多分野に関連する問題であり、総合的な問題であることを認識し、柔軟に検討を重ねていきたい。

8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

論文、発表資料

遠部 慎・松本安紀彦・酒井雅代・角縁 進「香川県豊島神子ヶ浜遺跡」『広島県立歴史博物館研究報告』第10号、広島県立歴史博物館（2008.3）

遠部 慎「考古学からみた水ヶ浦」『豊島学会第2回研究発表会』豊島学会（2008.4）

松本安紀彦・遠部慎「神子ヶ浜遺跡の再整理—広島県立歴史博物館資料の報告—」『豊島学会第2回研究発表会』豊島学会（2008.4）

遠部 慎「豊島産業廃棄物不法投棄事件と考古学」『平成20年度廃棄物学会研究討論会講演論文集』p.111（2008.7）

遠部 慎「産業廃棄物不法投棄現場の考古学—水ヶ浦のモデルケース」『第6回島の学校資料』島の学校実行委員会（2008.8）

五十嵐聡江・遠部 慎「文化財を活用した環境教育の実践—豊島を事例に—」『日本環境教育学会第19回大会』（2008.8）

遠部慎「豊島：水ヶ浦—産業廃棄物不法投棄と考古学—」『瀬戸内海研究フォーラム in 福岡』、瀬戸内海研究会議（2008.9）

五十嵐聡江・松田朝由・遠部慎「豊島つぶ（遺跡編）の作成にむけて（2）」『瀬戸内海研究フォーラム in 福岡』、瀬戸内海研究会議（2008.9）

遠部 慎・五十嵐聡江「豊島から見る島嶼部の考古学—「島の学校」の参加を通して—」『考古学研究』第55巻第2号、pp.24-28、考古学研究会（2008.9）

遠部 慎「産業廃棄物不法投棄現場の考古学的復元—豊島水が浦のモデルケース—」『第19回（平成20年度）廃棄物学会研究発表会』（2008.11）、廃棄物学会

新聞記事

2008/5/31 徳島新聞に「産廃の島の遺跡を守ろう」掲載。

2008/8/25 四国新聞ほかに授業の様子が掲載。

